

# 「よりよく生きる」領域

## 【対応状況(臨床研究・臨床への橋渡し研究) ①】

### 健康研究推進会議を健康研究の司令塔機能として設置。

#### ○総合科学技術会議（平成20年6月19日 開催）

「平成21年度の科学技術に関する予算等の全体の姿と資源配分の方針」(関係部分抜粋)

・府省の枠を超えた一体的な施策の推進。

健康研究分野(橋渡し研究・臨床研究)を初めての例として、関係府省合同での戦略策定、予算編成への取組を開始する。

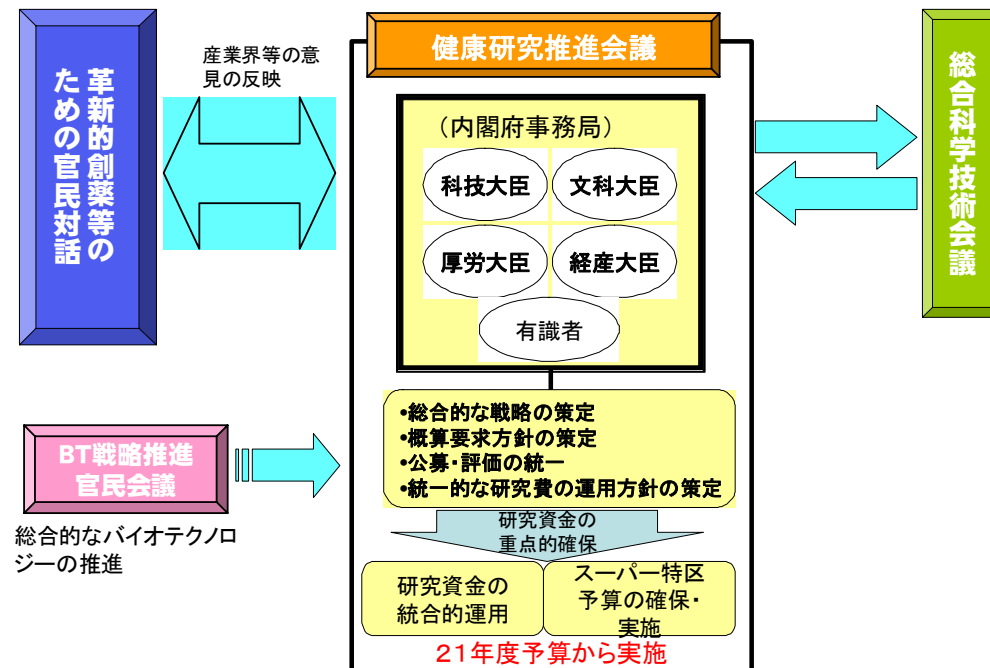
#### ○健康研究推進会議を設置（平成20年7月22日 決定）

・橋渡し研究・臨床研究の司令塔機能。

・内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び有識者から構成。

・概算要求方針を策定するとともに、橋渡し研究・臨床研究について、総合的な戦略を策定する。

・先端医療開発特区(スーパー-特区)制度の実施。

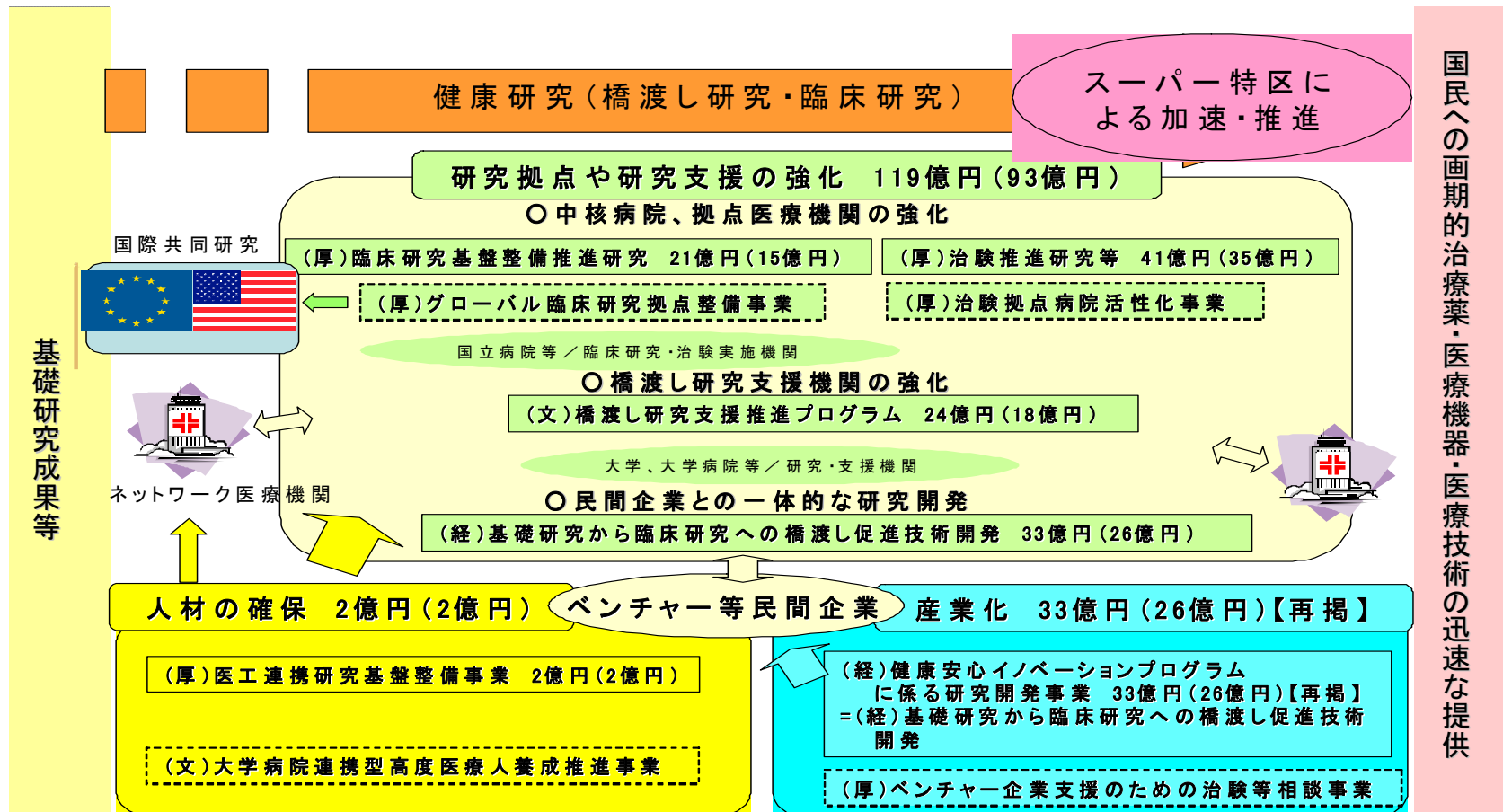


# 「よりよく生きる」領域

## 【対応状況(臨床研究・臨床への橋渡し研究)②】

- ・健康研究会議で決定した概算要求方針に基づき、府省の枠を超え、我が国として統一かつ重点的な概算要求を実施。
- ・また、本年7月、「スーパー特区」を創設し、24課題を採択し、最先端の再生医療、医薬品・医療機器の開発・実用化を推進している。

### 平成21年度健康研究関係施策政府予算案 121億円(95億円)



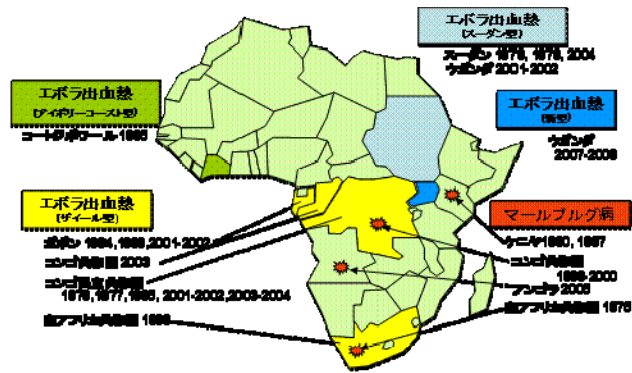
※平成21年度健康研究概算要求方針に基づく施策のうち、□:科学技術振興費 [ ] :科学技術振興費以外。( )内は、昨年度予算額。

# 「よりよく生きる」領域

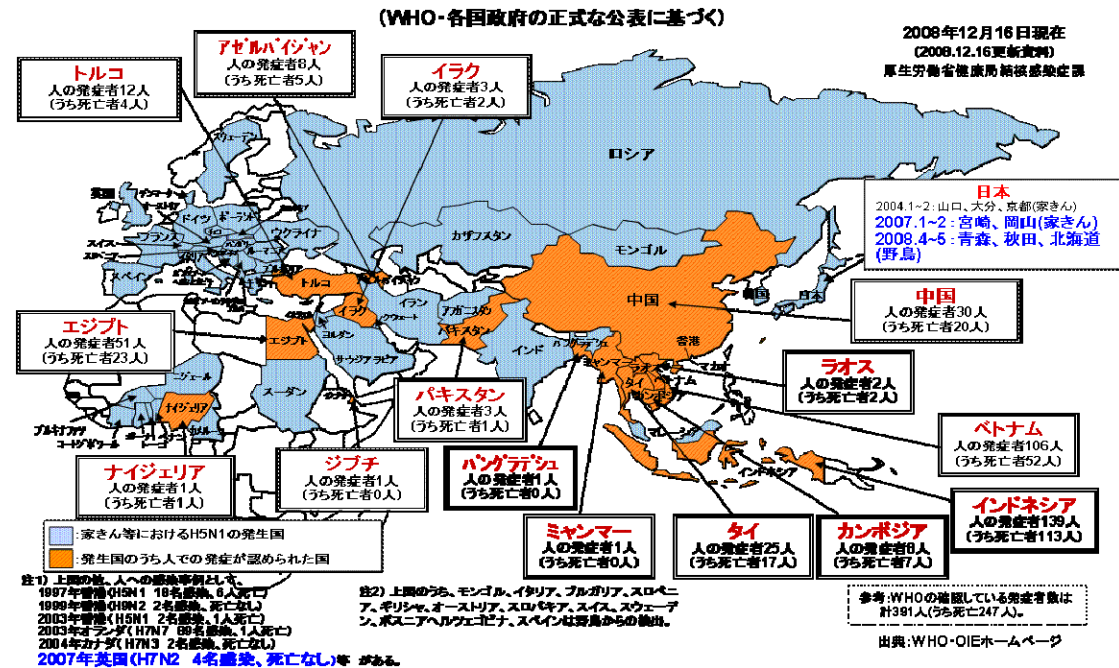
## 【現状分析(新興・再興感染症)】

- ・1945年以降、最も重篤な感染症であるクリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ病、ラッサ熱、エボラ出血熱が登場し、現在も流行が繰り返され、先進国においても患者の輸入例が発生しており、我が国でもラッサ熱の輸入例や患者の疑い例が出ている。
- ・近年、東南アジアを中心に高病原性鳥インフルエンザが流行しており、これらのウィルスが人に感染し、死亡する例も報告されている。
- ・我が国で再び流行が見られる麻疹や結核、アジア諸国を見られる多剤耐性結核菌やデング熱等への対策が、引き続き必要な状況となっている。

アフリカにおけるウィルス性出血熱の流行



鳥インフルエンザ(H5N1)発生国及び人で発症事例



欧米における重篤な感染症の発生状況

発生年	発生国	感染国	疾患名	患者
1997年12月	英国	ジンバブエ	クリミアコンゴ出血熱	78歳女性
2000年1月	ドイツ	ガーナ他	ラッサ熱	23歳女性
2000年3月	英国	シエラレオーネ	ラッサ熱	50歳男性
2000年3月	ドイツ	ナイジェリア	ラッサ熱	57歳男性
2000年6月	オランダ	シエラレオーネ	ラッサ熱	48歳男性
2001年7月	セルビア	コンボ	クリミアコンゴ出血熱	69歳
2003年7月	ロシア	ロシア	クリミアコンゴ出血熱	14歳
2004年8月	米国	シエラレオーネ	ラッサ熱	38歳男性
2005年7月	ロシア	ロシア	クリミアコンゴ出血熱	16歳
2005年7月	トルコ	トルコ	クリミアコンゴ出血熱	41歳
2006年5月	セルビア	コンボ	クリミアコンゴ出血熱	3歳
2006年7月	ドイツ	シエラレオーネ	ラッサ熱	70歳男性

(注) 診断が確定できなかった疑い患者は元表から除外。なお、欧州各国では疑い患者は毎年発生状況。(元表はGermany, Frankfurt City Health Departmentから提供)